

竹富方言の基礎語彙：分野3、植物

加治工，真市

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

23

(開始ページ / Start Page)

95

(終了ページ / End Page)

107

(発行年 / Year)

1999-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012573>

竹富方言の基礎語彙

——分野 3、植物——

著者：加治工 真市

話者：河上親雄氏（大正 3 年 1 月 2 日生）

本分野の方言資料は、すべて河上氏の御協力によるものである。記して深く感謝申し上げる。

「アー」[ʔa:] (名) あわ (粟)、竹富では昔はたくさん作っていた。種取祭には欠かせない穀物。今でも屋敷内によく作っている。糯粟が多く作られる。種取祭に用いられるのもモチ粟である。ムッチャ [mutʔtja] (糯粟)。

「アーサ」[ʔa:sa] (名) あおのり (青海苔)、あおさ科の海藻。浅い海の珊瑚礁の岩場に生える。食用になるものと、食用にならないものがある。北の海岸と、港から東の方の浅瀬や、西の海岸でとれる。遠浅の海岸の岩に生えている。

ア「ダ」ニウ「ラ」[ʔaʔdaʔniʔuʔra] (名) あだん (阿檀) タコノキ科の常緑低木。葉には鋭い刺がある。戦前は、この葉を利用してパナマ帽を作った。子供は、この葉を裂いて風車を作って遊んだ。また、この葉を裂いて筵を編んで用いた。気根からは強力な繊維がとれ、これを利用して縄をなったり、細縄で野外用の物入れ (ハンドバッグ) を編んだ。

アツ「コ」ン [ʔakʔkoʔŋ] (名) いも。「赤いも」の義か。アツ「コ」ンナー [ʔakʔkoʔnna:] は幼児語、「おいも」の意。[ʔna:] は美称の指小辞。「ン」[ʔn] (いも) ともいう。「ミシチャー」[ʔmiʃtja:] (三月で実が完熟するイモのこと) 竹富で栽培されたイモは、この種が多い。味はないが、大きく成長しやすいので、好んで作られた。

「インバムトゥ」[ʔʔimbamutu] (名) 力草。オヒシバの異名。雑草で、強力な根を張り、生命力が強い。畑や道端に自生し、踏まれても枯れない。「インバムトゥヌドゥ ムイ」ラー [ʔʔimbamutunudu muiʔra:] (力草が生えている)

「ウイ」[ʔui] (名) うり (瓜)、野菜の一種。「マ」ーウイ [ʔmaʔui] (まうり、まくわうり) は酢の物などにしてよく食べた。「キューリ」[ʔkju:ri] (胡瓜) は近年になって作られるようになった。以前は「マ」ーウイしかなかった。

ウ「ティルン」[ʔuʔtiruŋ] (動) 落ちる。ものが落下する。散る。ウ「ティ」ドゥラ [ʔuʔtiʔdura:] (落ちている)、ウ「チ」ッター [ʔuʔtʃitʔta:] (落ちた) ハ「ナ」ヌドゥ ウ「ティ」ラー [haʔnaʔnudu ʔutʔtiʔra:] (花が散る)。

ウヤツタ「ラ」[ʔujattʔaʔrə] (名) 上、上の方。

「エンドー [ʔjendo:] (名) えんどう (豌豆)。サ「ヤマメ [saʔjamame] という。新しく入ってきた作物。

オ「カボ [ʔoʔkabo] (名) 陸稻。昔は作っていたが、今はない。しばらく作っていた。

「オッサ^ニ [ʔʔossaʔ] (名) 「青い草」の義で、芝生のこと。「小さい草」の意。

「オッ^ニサ^ニヌドゥ 「ムイ^ニラー [ʔʔosʔsaʔnudu ʔmuiʔra:] (青草が生えている。芝生が生えている)。

ガ「ジョ^ニーネ [gaʔdʒoʔ:ne] (名) がじまる。榕樹。

ガ「ジョ^ニーネヌ キー [gaʔdʒoʔ:nenu ki:] (がじまるの木、榕樹) ともいう。

カジ^ニラ [kadʒiʔra] (名) かずら (葛)。つる草のこと。「^ニン^ニヌ カジ^ニラ [ʔnʔnu kadʒiʔra] (いもの葛、いもかずら)。

カ^ニニフ [kaʔniʔʃu] (名) ぶどう (葡萄)。野葡萄。野生の野葡萄が自生している。カ^ニニフヤヤー 「デー^ニジッ^ニティー ア^ニジヌ アリッ^ニティー マー^ニタン^ニドゥラー [kaʔniʔʃujajə: ʔde:dʒitʔti: ʔaʔdʒinu ʔaritʔti: ʔmaʔttandura:] (野葡萄は大変味があって、おいしかった)。

カ^ニ「ブチャ [kaʔbutʃa] (名) かぼちゃ (南瓜)。とうなす。竹富島では、野菜類はその「はしり」を出した。石垣島が近く、市場に出すのに便利であった。現在は専業農家がなく、屋敷内の畑で自家用に生産される程度である。ム^ニ「カ^ニシヤー ヤ^ニ「サイ^ニヌ^ニン^ニジ^ニハジメヤヤー 「テー^ニドゥン デッタ^ニナッ^ニティヤー [muʔkaʔʃija: jaʔsaiʔnu nʔdʒiʔhadʒimeja: ʔteʔdun dettʔanattʔijə:] (昔は、野菜の出はじめは竹富島であった)。

カ^ニ「リパー [kaʔripa:] (名) 「枯れ葉」の義。おちば (落ち葉) のこと。カ^ニ「リパーヌドゥ^ニ ウ^ニ「ティ^ニラー [kaʔripa:nuduʔ ʔuʔtiʔra:] (枯れ葉が落ちている)

カ^ニ「リルン [ʔkarirun] (動) 枯れる。植物が枯れる。ム^ニ「トゥン^ニガ^ニリ [muʔtunʔgaʔri] (名) 根元から枯れること、ともいう。

「キー^ニヌドゥ カ^ニ「リラー [ʔkiʔnudu kaʔrira:] (木が枯れた)、ア^ニ「ミ^ニヌ ツ^ニ「パ^ニナ^ニタン^ニ「ティン カ^ニ「ルヌー [ʔəʔmiʔnu ʔpʔaʔnaʔtanʔtig kaʔrunu:] (雨が降らなくても枯れない)。

カルン [karun] (動) 刈る。稲を刈る。「ム^ニン^ニ カン^ニ「ナー [ʔmuʔn kanʔnə:] (麦を刈りに～)、「ア^ニー^ニ カン^ニ「ナー [ʔʔaʔ kanʔnə:] (粟を刈りに～)、「キュー^ニヤー 「オー^ニッキンカイ^ニ「サリヤー 「ム^ニ「カン^ニナー^ニツ^ニ「ティドゥ 「アイ^ニラー [ʔkjuʔjə: ʔʔoʔkkig kaiʔsarija: ʔmuʔʔ ʔkanna:tʔtidu ʔʔaiʔra:] (今日は天気もよいので、麦刈りにとあるところだ。麦刈りに行こうとしているところだ)。

カン^ニ「ピュー [kamʔpju:] (名) かんぴょう (干瓢)、大根をむいて乾燥させたもの。イモ (芋) のかんぴょうも作った。いものかんぴょうは、これを粉にしてお粥にして食した。ヤ^ニ「シューヌ ハン^ニマイ テヒ^ニ「ティー 「カン^ニ「ピューン 「ヌー^ニサナ ホイ^ニダン^ニナッ^ニ「ティ

ヤー[jaʼʃuɲu hammai teɕiʼti: ʼkamʼpju:n ʼnu:sana hoidannatʼtijə:] (飢饉の飯
米として、カンピョーもたくさん食べたよ)。

「キー」[ki:] (名) 木、樹木。「カー」キー [ka:ki:] (桑の木)、ガ「ジョー」ネーヌ キー [ga
「dʒo:ne:nuki:] (がじまるの木、榕樹)、ク「ルキ [ku「ruki] (こくたん、黒檀)、「フン」キ
[「ɸuŋki] (ふくぎ、福木)、「ズー」キ [dzu:ki] (でいご)、マツ「ツ [mat「tsu]
(松)、シ「ーチ [ʃi:ti] (そてつ、蘇鉄) などがある。

「キー¹ウイ¹」[¹ki:¹ui] (名) きゅうり (胡瓜)。「キー¹ウイヤー ク¹ヌグルドゥ ヘー¹リナッ
ティヤー」[¹kju:¹rija ku¹nugurudu he:¹rinattijə:] (胡瓜はこの頃《最近》になって入っ
たよ)「キー¹ウイヤー ク¹ヌグルドゥ ヘー¹リラー」[¹ki:¹uija ku¹nugurudu he:¹
rira:] (胡瓜は最近入ったよ)。

「キー」ヌ ア「バ」[ki:˦nu ʔa˦ba] (連)「木の脂」の義。やに(脂)のこと。マ「ツ」ヌ ア「バ」[ma˦tsu˦nu ʔa˦ba] (松の脂、松やに)。

「キー」ヌ 「カー」[「ki:」nu 「ka:」] (連)「木の皮」の義。樹皮のこと。「タイヌ カー」[「tainu ka:」] (竹の皮)

「キー」ヌ パンタ「^ニ」[ki:nu pantaʔ] (連)「木の先端」の義、梢のこと。「キー」ヌ 「パ
ンター」ナ ガ「ラ」シヌ ドウ ッ「カ」リー「チョッ」タ [ki:nu panta:na gaʔraʔ
ʃinudu kʔkaʔri:tʃotʔta] (梢にカラス止っている) ヒ「カ」リラー [çʔkaʔrira:] (止って
いる)

「キー」ユ ッ「シェ」ル ア「トウ」[「ki:ɾju ʃeɾu ʔaˈtu (連)「木を切った跡」の義。切り株の意。

キ¹ク [ki¹ku] (名) キク (菊)、キ¹ク²ヌ ハ¹ナ [ki¹ku²nu ha¹na] (菊の花)

「キャンギー」[「kjanggi:」](名) 榎の木。建築用材として重宝された。特に飾り柱、床柱用材として用いられた。各家の屋敷に好んで植樹され、大切に育樹された。

「キンダイクニ」[「kindaikuni」] (名)「黄大根」の義。人参のこと。

クツ「チュ [kʌtʰtʃu] (名) 唐辛子。香辛料として各家の庭先きや、屋敷裏の菜園などに植えていた。クツ「チュ「ヤ カ「ラ「サダ「ル [kʌtʰtʃuʲjə kaʰraʰsadaʰru] (唐辛子は辛い)

ク「ブ」[ku「bu」] (名) こんぶ(昆布)。ク「ブ」ヤー 「デージツ」ティー ン「マー」ンドウ「ラー」
[ku「bu」jə: 「de:dʒit「t「i m「ma:「ndu「ra:」] (昆布は大変おいしいですよ)。ク「ブ」ヤー
ン「マ」サンドウ「ラー」 [ku「bu」jə: m「ma」sandu「ra:」] (昆布はおいしいよ)

グ「マ」[gu「ma」] (名) こま (胡麻)、ゴマは昔から作っていた。グ「マ」ン ツ「く」リドゥ 「ウ」
「タナッティヤー」[gu「ma」ŋ k「k」u「ridu ʔu「tanatt」ijə:] (ゴマ《胡麻》も作って《栽培
して》いたよ)

(フ)「くル」[(Φ_u)「k'uru」] (動) 作る。こしらえる。栽培する。(フ)「く」ラヌ[(Φ_u)「k'u」ranu] (作

らない)、(フ)「く」リッター [(Φ)^u「k'u」ritt'a:] (作った) (フ)「く」リダ「ル」 [(Φ)^u「k'u」rida「ru」
(作っている) (フ)「く」リ [(Φ)^u「k'uri」 (作れ)、(フ)「く」ルシトウンドウ 「ブ」ラーヌ [(Φ)^u
「k'u」ruʃjtundu bu「ra:nu」 (作る人がいない)

ク「ルキ」 [ku「ruki」 (名) くろき (黒木)、黒檀。琉球黒檀は三味線楽器の棹の材として重宝
されている。お嶽の森や屋敷内にも植えられた。

「クワー」キ [(「kwa:」ki) (名) 桑、桑の木。桑樹。桑の実をナ「ニチ」 [na「nitʃi」 という。子供
の頃真赤に熟した桑の実をよく側べた。桑は養蚕のために植えた。

「グンボ」 [(「gumbo」 (名) 牛蒡。ゴボウは耕土の深い所で栽培される。竹富は珊瑚礁の島なの
で牛蒡は栽培されない。石垣島より輸入してきた。「グン」ボーヤー イ「ナ」シラドゥ 「カ
イキ」ー ッ「カイナ」ー ッ「ティヤー」 [(「gum」boja: ʔi「na」ʃiradu 「kaiki」: ʔk「k'aina」
ʔtija:] (牛蒡は石垣島より買って来て使っている)。

「ゴーヤー」 [(「goja:」 (名) にがうり (苦瓜)、ツルレイシの別名。夏の乾期にも育つ。実は、
直径約5センチ、長さ約25センチの紡錘形が多い。未熟の果実は、全面に濃緑の瘤状の突
起に被われている。この果皮は苦いが、豆腐や魚肉、豚肉、葉菜類とチャンプルーにする
と美味である。

「サイ」イ [(「sa」i) (名) 芽ばえ。発芽。発芽すること。「サイドゥラー」 [(「saidura:」 (芽生えて
いる)。

サ「ク」ラ [sə「ku」ra) (名) さくら (桜)、桜の木。昔桜を植樹したが根づかず、すべて枯れ
てしまった。

ザ「クロ」 [dza「kuro」 (名) ざくろ (石榴)。観賞用に植えたが台風で枯れてしまった。

サ「クン」 [sa「kun」 (動) 咲く。花が咲く、開く。ハ「ナ」ヌドゥ 「サシ」ター [(ha「na」nu
「sa」ʃi「ta:」 (花が咲いた)。ハ「ナ」ヤ 「サー」ヌン [(ha「na」ja 「sa」nuŋ) (花は咲かな
い)、ハ「ナ」ヌドゥ 「サイ」イ「ラー」 [(ha「na」nu «sa」i「ra:」 (花が咲いている)、ハ「ナ」ヌ
「サイルバ」ショ「ー」 ア「ミ」ヌドゥ ッ「プー」 [(ha「na」nu «sairuba」ʃo: ʔa「mi」nu
p「pu:」 (花が咲く時は雨が降る)、ツパ「ヌ」 [(pp'a「nu」~Φp'a「nu」 (降らない) ツ「ピ」ラー [(p「
pi」ra:~Φpi「ra:」 (降っている)。

サッ「プ」マイ [sap「p'u」mai) (名) 粳米。サッ「プ」マイヤ 「ヤ」ニ「サ」 ッ「ク」ラ「ヌー」 [sap
「p'u」maija: 「ja」ni「sa ʔk「k'u」ra「nu:」 (粳米は、たくさん作らない)

サ「ヤ」マミ [sa「ja」mami) (名) さやえんどう (莢豌豆)、さやのまゝのえんどう。「エンドー
ともいう。サ「ヤ」マミヤー 「ナ」ニ「ドゥ」 ッ「クリ」ナッティヤー [(sa「ja」mamija: 「na」
ni «k'uri」natʃija:] (さやまめは、今が作っている、最近になって作るようになった) サ
「ヤ」マミヤー 「ナ」ニ「ドゥ」 ン「ジ」ナッティヤー [(sa「ja」mamija: 「na」ni «dʒi」
natʃija:] (サヤ豆は今が出るようになった、昔はなかった)、ム「カ」シ 「アイ」ルノー 「

- ネー^ㇿナッター [mu^ㇿka^ㇿʃi ʔai^ㇿrunoː neː^ㇿnattaː] (昔はあんなものはなかった)
- 「サン^ㇿガナ [saŋ^ㇿgana] (名) イモすり器。ブリキ板に、釘で穴をあけ、木ワクにはめてイモを摩り、デンプンを作るのに用いる器具。ツ^ㇿカラ ンジッ^ㇿティ 「サン^ㇿガナサーニドゥツ^ㇿスナツ^ㇿティヤー^ㇿ [k^ㇿʔara ndʒit^ㇿti saŋ^ㇿganasaːnidu s^ㇿʃunat^ㇿtijəː] (力を出して、芋摩器です)、ツ^ㇿカラ ンジッ^ㇿティ ツ^ㇿスイ^ㇿ [k^ㇿʔara ndʒit^ㇿti s^ㇿʃui] (力を出してすれ)
- 「シーカシャー [ʃiːkaʃaː] (名) みかん(密柑)の一種。ヒラミレモン。酸味が強く、さしみにかけて食べるのに用いる。フ^ㇿニュー^ㇿ [Φu^ㇿnjuː^ㇿ] (九年母) ともいう。
- 「シーソー [ʃiːsoː] (名) しそ(紫蘇)、しそは薬草として屋敷内に植えて栽培していた。たいていの家には栽培されていた。「シー^ㇿソーヤー 「ヤヒ^ㇿキナーダ 「ダンティン ビードゥータナツ^ㇿティヤー^ㇿ [ʃiːsoːjaː ʃaɕj^ㇿkinaːda ˈdantim biːduːtanat^ㇿtijəː] (シソは屋敷などにも植えていたよ)
- シ^ㇿーチ [ʃiːtʃi] (名) そてつ(蘇鉄)。シ^ㇿー^ㇿチヌ クガ^ㇿ [ʃiː^ㇿtʃinu kugaː^ㇿ] (そてつの実)、蘇鉄の実を割って中実を取り出し、乾燥してデンプンを作り、食用にした。味噌を作るのにも用いた。
- 「ジーマミ [dʒiːmami] (名) 落花生。「地豆」の義。竹富島ではあまり作らなかった。石垣島あたりから買ってきた。
- シ^ㇿキ [ʃiːki] (名) つき(月)。[k^ㇿʔi] (月) ともいう。シ^ㇿトゥッキ [ʃiːtukk^ㇿi] (ひと月)、フ^ㇿタッキ [Φu^ㇿtakk^ㇿi] (ふた月)、「ミッキ [mikk^ㇿi] (み月)、「ユッキ [jukk^ㇿi] (よ月)、イ^ㇿチ^ㇿヒキ^ㇿ [ʔiːtʃi^ㇿɕiki] (いつ月)、ナ^ㇿナツ^ㇿキ [naːnak^ㇿk^ㇿi] (なな月)、「ヤーッキ [jaːkk^ㇿi] (や月)、ク^ㇿヌツ^ㇿキ [kuːnuk^ㇿk^ㇿi] (九月)、「トゥッキ [tukk^ㇿi] (と月)、「トゥッキサーニ ファー^ㇿヤ マ^ㇿリルン [tukk^ㇿisaːni Φaː^ㇿja ma^ㇿrirug] (十月で子供は生れる)
- シ^ㇿタ [ʃiːtʰa] (名) 舌。
- シ^ㇿた^ㇿ [ʃiːtʰaː] (名) 下、下方。
- シ^ㇿビ^ㇿラ [ʃiːbiːra] (名) ねぎ(葱)。葉や白根をおつゆに入れて食する。
- シ^ㇿミ^ㇿダンコ [ʃiːmiːdanˠko] (名) 「つゆくさ」に似た野草。みずみずしい茎を摘んで重しをかけ、つぶして乾燥させて食した。
- 「シャー [ʃaː] (名) 茶。
- ジャ^ㇿ「ガイ^ㇿモ [dʒaːgaiːmo] (名) ジャガイモ(馬鈴薯)。ジャ^ㇿ「ガイ^ㇿモーン 「イナシヌ イッチ^ㇿバーラドゥ 「カイヒー^ㇿ ヒ^ㇿ「カイナーツ^ㇿティヤー^ㇿ [dʒaːgaiːmoːŋ ʔinaʃinu ʔittʃiːbaːradu ˈkaɪçiː ɕiːk^ㇿʔainat^ㇿtijəː] (ジャガイモも石垣の市場から買ってきて使った)。ジャ^ㇿ「ガイ^ㇿモヤー 「ヤー^ㇿサ ツ^ㇿく^ㇿリドゥーッタラー [dʒaːgaiːmojaː ˈjaː^ㇿsa k^ㇿʔuːriduːttʰaraː] (ジャガイモはたくさん作っていた)。農協から種子の配布を受けて作っ

ていた。

「ショング [ʃɔŋga] (名) しょうが (生姜)。薬草として自家用に栽培した。咳の薬として薬効があるといわれている。香辛料としても用いられる。

「ヤヒ キーナードゥ 「メーナドゥ ツくリッタ 「ラー [jaçiki:na:du me: nadu k'k'uritʔa ra:] (屋敷内で、少しずつ作っておった)

「シン [ʃiŋ] (名) きび (黍)。粟のように黄色い実をつける。粟ほどの高さで、いくつも穂を出す。

「スイカ [suika] (名) すいか (西瓜)、スイカは砂地を好むので、昔は砂土畑地を借りて栽培していた。北海岸辺りは砂土地が多いので、そこにスイカを作った。

「スイカン 「ヤンサ ツくリドゥッタラッティヤー ムカシエー [sui kan ja: ʔsa k'k'u'riduttaratt'ijə: mu'kaʔje:] (スイカもたくさん作っていたよ、昔は)

「ズーキ [dzu:ki] (名) でいご (梯梧)、沖縄の県花。4、5月頃に緋紅色の花を咲かせる。木質は軟かく、漆器の材として用いられる。

ス「ナイ [su'nai] (名) 野菜の味噌和え。蜜え物。チノリャ〜[tʃi'norja:] (春ののげし) の新芽を摘んで味噌和えにして食した。

ス「ヌル [su'nu'ru] (名) スヌイ。海草の一種。海底の砂地で自生している。

ス「ブミ [su'bu'mi] (動) しぼむ (萎み)、ハ「ナヌドゥ 「スブミラー [ha'na'nudu ʔsubumira:] (花が萎んだ)

ス「ブル [su'buru] (名) ひょうたん (瓢箪)。果実を完熟させて、中をくり抜き、柄杓にしたり、穀類などをすくうのに用いる。

ス「ムン [su'muŋ] (動) つむ (摘む)。芽を摘む。茎を摘む。「ティーサーニ ス「ミ [ti: ʔsa:ni su'mi] (手で摘みなさい)、「ムッシャー [muʃʃija:] (むしり取れ) ともいう。

「ティーサーニ 「ムッシャー [ti:ʔsa:ni muʃʃija:] (手でむしり取れ)

ス「ル [su'ru] (名) つる (蔓)。

「スンヌツキ [sunnuk'i] (名) うらじろ。うらじろ科のしだ類。葉の大きなもので、芯をとって食べた。竹富島の御嶽あたりにたくさん自生している。野生の植物。法事には、その芯を摘んできて精進料理に用いる。「スンヌフキ [sun'nuɸy'ki] ともいう。

「ターナム [ta:mmu] (名) たいも (田芋)、「ターナムヤー ツくラ「ナーッタ [ta: ʔmmuja k'k'u'ra'natʔta] (田芋は作らなかった)

「タ「イ [ta:i] (名) たけ (竹)。竹はあまり生えていない。

「ダイ「キョー [dai'kjo:] (名) らっきょう (辣蕒)。「ダイ「キョーン 「ヤーサ ツくリドゥ ウタナッティヤー [dai'kjo:n ja:sa k'ku'ridu ʔutanatt'ijə:] (らっきょうもたくさん作っていた)

「ダイ「クニ [dai'ku'ni] (名) 大根、大根のはしりは「ミヤシゲ」という品種であった。

昔は大根をよく作って、そのはしりは石垣島の市場に出された。終戦後の一時期までは栽培されていた。

「タヌファー」[¹tainuΦa:] (名) たけのこ (竹の子)。

ダ「ベラ」[da¹bera] (名) へちま (糸瓜)、果実は、直径約5センチ、長さ約30センチの円柱状。若い果実は食用に利用され、完熟したものは繊維を「あかすり」などに用いる。味噌汁に入れてよく食べた。美味である。沖縄本島では「ナーベラー」という。

タ「マ」ネギ[ta¹ma¹negi] (名) たまねぎ。新しく標準語から借用された語。玉ねぎは作らない。北海道あたりから輸入された。

タ「マ」ネギヤ 「ジェンジェ」ン ツ「く」ラ「ナー」ッ「ター」[ta¹ma¹negija ¹dʒendʒe¹ŋ ^kk'u¹ra¹nat¹t'a:] (玉ねぎは全然作らなかった)

ダ「リ」ラー[da¹ri¹ra:] (名) しおれる (萎る)。アッ「ツァ」ルヌ ヤリティドゥ ダ「リ」ラー[²at¹tʃa¹runu jaritidu da¹ri¹ra:] (暑いのでしおれている)

「タン」グ[¹tag¹gu] (名) すすきを編んで作った炭俵。老人たちが内職で作った。朝起きして作っていた。すすきは利用価値が高かった。

チ「ノ」リャ〜[tʃi¹norja:] (名) はるののげし。年中繁茂していた。夏場になると、その新芽を摘んできて味噌和えにして食した。蜜え物にして食した。夏は青野菜が少いので、チノリャ〜を野菜代用に利用した。酢のもの (ス「ナイ」[su¹nai] 蜜えもの) にして食した。

「ッカ」[-¹kka] (数)、稲や麦などの株を数える数詞。シ「トゥ」ッカ [ʃi¹tu^kk'a] (一株、一つか)、フ「タ」ッカ [Φu¹ta^kk'a] (二株、二つか)

ッ「サ」[s¹sa] (名) 草。ッ「サ」ヌドゥ 「ムイ」ラ [s¹sa¹nudu ¹mui¹ra] (草が生えている) ャ「サ」ヌドゥ 「ムイ」ドゥラー [s¹sa¹nudu ¹mui¹dura:] (草が生えている)

ツ「サ」リルン [s¹sa¹rirug] (動) くされる。ム「ヌ」ヌドゥ ツ「サ」リラー [mu¹nu¹nudu s¹sa¹rira:] (ものが腐れた)、ツ「サ」リー 「ファール」ヌー[s¹sa¹ri: ¹Φa:runu:] (腐れて食べられない)、ツ「サ」ル「ヌ」[s¹sa¹ru¹nu] (腐れない) ツ「サ」リネヌ 「チョ」ッ「ター」[s¹sa¹rinenu¹tʃo:t¹ta:] (腐ってしまった)、ツ「サ」リドゥラー[s¹sa¹ridura:] (腐れている)、ツ「サ」リユ〜ノーヤ イ「ル」ナ[s¹sa¹riju¹noja ²i¹runa] (腐れたものは入れるな)、ツ「サ」リラー 「ファール」ヌー [s¹sa¹rira: ¹Φa:runu] (腐れたら食べられない)、ツ「サ」リドゥリーヤ 「ホー」ナ [s¹sa¹riduri:ja ¹ho:na] (腐れているから食べるな)、ツ「サ」リラン「ホー」ン [s¹sa¹riraŋ ¹ho:ŋ] (腐れても食べる)、ム「シン」カ「シー」 ツ「サ」リスニヤッター シ「ティ」レー [mu¹ʃiŋka¹ʃi: s¹sa¹risunijatt'a: ʃi¹tire:] (もしか腐れたら捨てなさい)

ツシ「ラ」[ʃʃi¹ra] (名) 砂糖きび。ツシ「ラ」ドゥ ツ「く」リ「ラー」[ʃʃi¹ra¹du ^kk'uri¹ra:] (砂糖黍をつくっている。栽培している)

ツ「プ」ン [^pp'ug] (動) 雨などが降る。ツ「パ」ヌ [^pp'anu~Φu¹panu] (降らない)、ア「ミ」ヌ

ドゥ フツ「ピ」ラー [ʔaʼmiʼnudu ɸyʼpiʼra:] (雨が降っている)、ア「ミ」ヌ フ「プ」ツター ハ「ラ」ヌ [ʔaʼmiʼnu ɸyʼputʼt'a: haʼranu] (雨が降ったら行かない)、ア「ミ」ヌ 「プ」ツタードゥ ン「ビルン」テー「ラー」 [ʔaʼmiʼnu ʼpʼutʼta:du mʼbirunteʼra:] (雨が降ったので植る)、「ハイ」ツ「ピ」 [ʼhaiʼsa pʼpʼi] (早く降れ)

「テー」シー [ʼte:ʃi:] (名) 野いちご。野生のいちご。原野や畑の畦などに自生していた。母親たちがイモ掘りの帰りに、畑のお土産としてよく持ち帰って子供たちに与えた。「テー」シェー 「マ」ー「ツタン」「チョ」ツター [ʼte:ʃe: ʼmә:ʼttʼanʼtʃotʼt'a:] (野いちごはおいしかったよ)、「テー」シヤ ン「マ」サタン「チョ」ツター [ʼte:ʃijә mʼmaʼsatanʼtʃotʼta:] (野苺はおいしかった)、「テー」シヤ 「マ」ー「ツ」タン [ʼte:ʃija ʼmә:ʼtʼtʼaŋ] (苺はおいしかった)

「トゥ」ヌクイ [ʼtunukui] (名) 茅葺き家の壁を、すすきを網代にし、茅を中にはさんで葺いた壁。暴風のときは、風の吹き当たる側の壁にトゥヌクイをどっと立てた。雨と風で茅が膨脹して、壁そのものが頑丈になった。「ヤー」ヌ「クイ」 [ʼja:nuʼkui] (家の壁)の外側から、「トゥ」ヌクイでかこい、暴風対策をした。茅葺き屋根は網をかぶせて暴風対策をした。

トゥ「ブ」シ [tuʼbuʃi] (名) 「とぼし」の義。枯れた松の木の根を削って灯火用としたもの。マ「ツ」ケラヌ トゥ「ブ」シ [maʼtsuʼkeranu tuʼbuʃi] (松の削りくずで作った灯火)

ト「マト」ー [toʼmato:] (名) トマト。なす科の1年草。食用。在来のトマトは、実が赤黄色で、大きさも直径2センチほどの球型である。味も甘味は少ない。新しい品種は大型の実をつけ、味も甘味が多い。

「ナー」ヌ・「パー」 [naʼnuʼpa:] (連) 「菜の葉」の義。なっば (菜っ葉)。「ナー」ヌ・「パー」ヌドゥ 「ムイ」ラー [naʼnuʼpaʼnudu ʼmuiʼra:] (菜っ葉が生えている)

ナ「ス」ビ [naʼsubi] (名) なす (茄子)。ナ「ス」ビン ヤ「サイ」ツ「ティ」 アイ「ツ」ティ ツ「ク」リドゥ 「ウ」ツ「タ」ナ「ツ」ティヤー [naʼsuʼbin jaʼsaitʼtʼi ʔaittʼi ʰkʰuʼridu ʔutʼtʼanattʼijә:] (ナスも野菜として作っていたよ)

ナ「ニ」チ [naʼnitʃi] (名) 桑の実。真赤に熟すると美味である。子供の頃よく桑の木に登ってナ「ニ」チ [naʼnitʃi] をとって食べた。ナ「ニ」チヌドゥ 「アン」ネ「ナ」リ「ラー」 [naʼniʼtʃinudu ʔanneʼ naʼriʼra:] (桑の実がたくさん実っているよ)

「ナルン」 [narun] (動) 実がなる (生る)。「ミー」ヌドゥ「ナ」リ「ラー」 [ʼmi:nuduʼ naʼriʼra:] (果物の実がなっている)

「ニー」 [ni:] (名) 根、植物の根。栄養を吸収するところ。根もと、もとになるところ。「キー」ヌ 「ニー」 [kiʼnu ʼni:] (木の根)、「マイ」ヌ ニー [mainu ni:] (稲の根)、「ニー」ヌドゥ フ「カ」サー「ル」 [ʼniʼnudu ɸyʼkaʼsaʼru] (根が深い)

ヌ「ビ」ルン [nuʼbiʼrun] (動) 伸びる、成長する。「ウル」イ「シー」ツ「ティー」 ツ「サ」ヌパー

ヌ ヌ「ビ」ルヌー [ʔʷurui ʃi:tti: sʰsaʷnupa:nu nuʰbiʷrunu:] (潤いがして、草の葉が伸びる、成長する)

ヌ「ル」 [nuʰru] (名) こけ (苔)。岩のり。ヌ「ル」 ムイ「ドゥ」ラー [nuʰru muɪʷdura:] (こけが生えているよ)。

「ハー」ミ [ʰa:mami] (名) あずき (小豆)、「赤豆」の義。まめ科一年草。実は赤黒色で、大豆の約1/2の大きさになる。「ハー」ミドゥ「ン」ビッタ「ラー」 [ʰa:mamiduʷ mʰbiʷtʰaʷra:] (あずきを植えた)。

「パー」 [pa:] (名) は (葉)、はっぱ。「キー」ヌ 「パー」 [ʰki:ʷnu ʰpa:] (木の葉)、「パー」ヌドゥ「ウ」ティ「ラー」 [pa:ʷnudu ʔuʰtiʷra:] (葉が落ちる)「パー」ヌドゥ「ア」カー「ア」カー ナ「リ」ヒティ「ウ」ティ「ラー」 [pa:nudu ʔaʰka:ʷaka: naʰriʷçiti: ʔuʰtiʷra:] (句) 葉が赤くなって落ちている。紅葉して落葉している。

「パイ」 [pai] (名) 「針」の義。とげ (刺) のこと。「パイ」ヌドゥ シ「タ」ティ「ラー」 [paiʷnudu ʃiʰtatiʷra:] (針が刺した、とげに刺された)。

バ「タ」 [baʰta] (名) わた (綿)。今はこの島では全く栽培しない。「木綿」の意にも用いる。ウ「ドゥ」ヌ バ「タ」 [ʔuʰduʷnu baʰta] (布団の綿)

ハ「ナ」 [haʰna] (名) はな (花)。

ハ「ナ」ヌドゥ 「サイ」ラー [haʰnaʷnudu ʰsaira:] (花が咲いた)。

「ピ」ヤ「シ」 [piʷjaʰʃi] (名) ひはつ。香辛料として使用される。胡椒の一種。石垣に這うように繁茂する。蔓が細長く伸び、直径約1センチ、長さ約5センチの円錐形の実をつける。香ばしい。年中収穫できる。

「ピ」ヤシヤー カ「ブ」シャダルー [piʷjaʃijə: kaʰbuʃadaru:] (ヒはつは香ばしい)、「ピ」ヤシヤー 「グ」ツ「ク」ナードゥ 「パー」シェ「ルー」 [piʷjaʃijə: ʰgukʷkʰuna:du ʰpa:ʷʃeru:] (ひはつは石垣に這わしてある)

ビ「ラ」 [biʰra] (名) にら (韭)。薬用として栽培していた。おつゆに入れて食した。

「ピ」ン [piʷŋ] (名) にんにく (葫、大蒜)、種取祭に用いるので大段的に栽培していた。「ピン」ナヤー タ「ナ」ドゥイヌー 「サ」ー 「ナ」ッタ「イ」シ「ティ」 「ヤ」ー「サ」 ツ「ク」リドゥタ「ラー」 [pinʷnaja: taʰnaʷduinu: ʰsa: ʰnattaiʷʃiti ʰjaʰʃsa ʰkʰuriʷduttaʰra:] (にんにくは種取祭の供物になっているから、たくさん作っていた)、種取祭の第1日目は、「ピン」 [piʷŋ] の願いを行なう。これをバ「リ」ビル [baʰriʷbiru] の願いという。後の日は、ムイムイ [muimui] (もやし) の願いという。

「フ」イン [ʰʋiŋ] (名) きび (黍) の一種。高さの高いもの。

「プー」 [pu:] (名) 穂。「マイ」ヌ プー [mainu pu:] (米の穂、稲の穂、稲穂)、「プー」ヌドゥ「ン」ジ「ラー」 [pu:ʷnudu nʰdʒiʷra:] (穂が出た。稲穂が出た。麦の穂が出た)「プイ」 [pui] (豊年祭) のこと。

「ブー¹ムン¹」[¹pu:¹muŋ] (名)大麦。穂先のノゲが長く伸びている品種。「テー¹ドゥン¹」「ナー¹ン¹バー¹」「ブー¹ムン¹ナ¹ ツ¹く¹リドゥッタラー¹」[¹te:¹dun¹ ¹na:m¹ba:¹ ¹pu:¹munna¹ *¹ ¹k'u¹ridutt'ara:¹] (竹富にも大麦は作っておった)小麦は作っていなかった。後に改良品種が導入されていた。

「ブー¹」[¹bu:] (名)あさ(麻、苧麻)。「ブー¹ダ¹」[¹bu:¹da:] (麻糸か)、クレー¹「ブー¹ダー¹」[¹kure:¹ ¹bu:¹da:¹] (これは麻糸か)、たて糸は芭蕉糸、よこ糸は麻糸を使った。各家庭で作っていた。「ブー¹ヤヤー¹ ナ¹ニ¹ヤラン¹ ツ¹く¹イドゥ¹ ナッティヤー¹」[¹bu:¹jajə:¹ na¹ ¹ʔ¹jarəŋ¹ *¹k'u¹idu¹ natt'ijə:¹] (苧麻は今でも作っているよ。栽培しているよ)

フ¹シ¹ [Φy¹ʃi] (名)ふし(節)、竹のふし、木のふし。

ブ¹ツ¹ [py¹ʔtsu] (名)よもぎ(蓬)。ブ¹ツ¹ヌパー¹ [py¹ʔtsu¹nupa:¹] (よもぎ葉)ともいう。解熱剤として、汁に砂糖を少量混ぜて飲ませた。汁を搾った後の滓は頭にすりつけた。

ブ¹ツ¹ヌパー¹ [py¹ʔtsu¹nupa:¹] (名)よもぎ葉。ブ¹ツ¹ヌパーヤ¹「シン¹ジー¹ シー¹ ヌ¹ウツ¹トウ¹ ニ¹チ¹ン¹ サガリー¹ ケ¹ツアツーン¹」サ¹ガ¹ルンティ¹ アシティ¹ [py¹ʔtsu¹nupa:ja¹ ¹ʃin¹dʒi:¹ ʃi:¹ nu¹ūt¹tu¹ nitʃin¹ sa¹ga¹ri:¹ ke¹ʔtsuatsum¹ ¹sa¹ga¹runti¹ ʔaʃi¹ti] (よもぎ葉を煎じて飲むと熱も下がり、血圧も下がるといって…)熱さましとして、よもぎ葉をすって、それに砂糖を入れて飲ませた。

フ¹ニュー¹ー¹ヌ¹ [Φu¹nju:¹ʔnu] (名)九年母、密柑の一種。フ¹ニュー¹ー¹ヌドゥ¹「アンジ¹ ナ¹リー¹シェー¹」[Φu¹nju:¹ nudu¹ ʔandʒi¹ na¹ri:¹ʃe:¹] (九年母があんなにたくさん実っているよ)

「フン¹キ¹」[¹Φuŋ¹ki] (名)ふくぎ(福木)、屋敷の防風林として各家に植樹されており、建築用材としても活用された。雌株には柿の実に似た実をつける。

ブンヌ¹「ナイ¹」[bunnu¹ʔnai] (連)梅の実。竹富島には生えていない。観賞用に植えた家もある。

「ボー¹ジャ¹ムン¹」[¹bo:dʒa¹muŋ] (名)麦の一種。穂先に長い「芒^{のき}」があり、それに刺されることもあった。竹富島では、この麦だけを作った。その後、改良種が導入された。改良品種には長い「芒」はなかった。

「マ¹ー¹ツ¹タン¹」[¹mə:¹tʔt'aŋ] (形)おいしかった。ン¹マ¹サ¹「ネー¹ナー¹ツ¹タ¹」[¹m¹ma¹sa¹ne:na:tʔt'a] (おいしくなかった)、タ¹ダー¹ン¹ ン¹マ¹サ¹ナ¹ルン¹ [ta¹da:¹m¹ m¹mə¹sana¹ʔruŋ] (だんだんおいしくなる)、ア¹ニ¹ヌ¹ ン¹マ¹サン¹ シ¹トウン¹ナ¹ ファー¹サル¹ヌ¹ [ʔa¹ʔ¹nu¹ mmasaŋ¹ ʃi¹tunna:¹ Φa:¹saru¹nu] (あまりにおいしいので、他人には食べさせられない)、「マ¹ー¹ツ¹ター¹」ネオ¹リヤー¹ [ʔmə:¹tt'a:¹ ¹neo¹rija:¹] (おいしかったら召しあがれ)

「マ¹イ¹」[¹ma¹i] (名)稲。「^{マイ}米」の義。ムツ¹チマイ¹ [mut¹ʔtʃimai] (糯米)、サツ¹プマイ¹ [sap¹p'umai] (粳^{ウルチ}米)がある。

マツ「ツ [matʰtsu] (名) 松。現在はあまり生えていない。話者が小学生の頃には、島の北側に松の並木がうっそうと茂っていたという。蔡温の植林政策で植樹されたものといわれていたという。

マ「ミ [maʰmi] (名) 豆、大豆。戦後は大豆を大量に作っていた。マ「ミ「ヤーヤメー ヌ「ーサラ ツくり「ドゥッタラー [maʰmiʲjə:jame: nuʰ:sara ʰkʰuriʲduttʰara:] (大豆はたくさん作っていた)、マ「ミ「ヤーヤ メー 「ヤー「カジ 「ヤー「サ ツくり「ドゥッタラー [maʰmiʲjə:ja me: ʰja:ʲkadzi ʰja:ʲsa ʰkʰuriʲduttʰara:] (大豆は、家ごとに) たくさん作っていた) ともいう。大豆は換金作物でもあり、三度三度豆腐のおつゆをたべた。

マ「ミ [maʰmi] (名) まめ (豆)、

マ「ミ「ドゥ ンベ「ル [maʰmiʲdu mbeʰru] (豆を植えた)、「ハーマミ [ʰha:mami] (あずき《小豆》) などがある。

「ミー [ʰmi:] (名) 実。植物の実。果物。「ミーヌドゥ「 ナ「リ「ラー [ʰmi:nuduʲ naʰriʲra:] (実がなった)、ナ「ニチ [naʰnitʲi] (桑の実)、フ「ニュー [Φuʰnju:]、フ「ニフ [ΦuʰniΦu] (みかんの実)

「ミー [ʰmi:] (名) 芽。新芽。植物の芽。

「ミーヌドゥ「 ン「ジ「ラー [ʰmi:nuduʲ nʰdʒiʲra:] (植物の新芽が出た)

「ミシキヤー [ʰmiʲjkja:] (名) イモ (甘藷) の種類。「三月もの」の義か。三ヶ月で完熟し、収穫できる芋のこと。形は大きい味がうすく、美味ではなかった。竹富島では早期収穫可能なこの芋を主として植付けていた。

「ミングル [ʰminguru] (名) きのこ (茸)。野生の茸。きくらげ (木茸) のこと。ミングルは、法事などの供物の料理に用いられる。桑の木の枯木の根っこに生えるものは美味であった。「しいたけ (椎茸)」の一種。

「ムイ「ラー [ʰmuiʲra:] (動) 生えている。

ッ「サ「ヌドゥ 「ムイ「ラー [sʰsaʲnudu ʰmuiʲra:] (草が生えている)、ッ「サ「ン 「ムーヌ [sʰsaʲm ʰmu:nu] (草も生えない。萌えない)、ッ「サ「ヌドゥ 「ムシ「ター [sʰsaʲnudu ʰmuʲʲiʲta:] (草が生えた)

ムッ「チマイ [mutʰtʰimai] (名) 糯米。ムッ「チマイドゥ ヤ「「サ ツ「く「レ「ル [mutʰtʰimaidu jaʲʰsa ʰkʰuʲreʰru] (糯米をたくさん作った)、ツ「く「リダ「ルー [ʰkʰuʲridaʰru:] (作ってある)

ムッ「チャ [mutʰtʰja] (名) もちあわ (糯粟)。「テー「ドゥン 「ナー「ヤ ムッ「チャードゥ「 フ「ク「ル 「ナー「ッ「ティヤー [ʰte:ʲdun ʰna:ʲjə mutʰtʰa:duʲ Φʰkʰuʲru ʰnatʰtʰijə:] (竹富では糯粟を作っている)

ムッ「トゥイ「ラー [mutʰtuiʲra:] (動) 植物がおい茂る。樹木が繁茂する。育つ。「キー「ヌドゥ ムッ「トゥイ「ラー [ʰki:ʲnudu mutʰtuiʲra:] (樹木が繁茂している。おい茂っている)

る)

ム「トゥ [mu「tu] (名) 「もと」の義、幹のこと。「キー」ヌ ム「トゥ [「ki:」nu mu「tu] (木の幹)、「キー」ヌ ムトゥンドゥ 「フー」シャー「ルー」[「ki:」nu mutundu 「Φu:」ja:「ru:」 (木の幹が大きい)

「ムン [「muŋ] (名) むぎ (麦)。麦の総称。「ボー」ジャ「ムン [「bo:dʒa「muŋ] だけを竹富島では作っていた。

「ヤー」ヌ「クイ [「ja:nu「kui] (連) 家の壁。茅葺きの家の壁。すすきを網代にし、中に茅をはさんで締めあげ、戸の形に作った壁。

ヤ「サイ [ja「sai] (名) 野菜。標準語からの借用語。「ナー」ヌ「パー [「na:」nu「pa:] (菜っ葉) など。ヤ「サイ」ヌ パードゥ 「ホー」ナッティ「ヤー」[ja「sai」nu pa:du 「ho:natt'i「jə] (野菜の葉を食べる)、ヤ「サイ」ヌ パードゥ 「ホー」イッタル [ja「sai」nu pa:du 「ho:itt'aru] (野菜の葉を食べたい)

ヤ「ラサナリ」ラー [ja「rasanari「ra:] (動) しなびる (萎びる)。「柔らかくなる」の義。体が弱い、病弱である。「ヤファ」ラ「サ」[「jaΦa「ra「sa] (やわらかい)。ヤ「ファ」ラサネヌ [ja「Φarasanenu] (やわらかくない)、ヤ「ファ」ラサダッ「タル」[ja「Φarasadat「ta「ru] (やわらかかった)、タ「ダー」ン タ「ダー」ン ヤ「ラサナル」ン [ta「da:」n ta「da:」n ja「rasanaruŋ] (だんだんやわらかくなる)、

「ウヌ」 ファーヤ 「ヤー」ラサル「ヌ」[「ʔunu「 Φa:ja 「ja:rasaru「nu] (この子は体が弱い)

「ユイ [「jui] (名) ゆり (百合)、「ユイ」ヌ ハナ [「juinu hana] (ゆりの花)、「ユイ」ヌ ハナ「ヌ 「サイ」ドゥラ [「juinu hana「nu 「saidura] (百合の花が咲いている)

ユ「ダ [ju「də] (名) 枝。木の枝。「キー」ムトゥヌ ユ「ダ [「ki:」mutunu ju「də] (木の枝)

「ユヒ」キ [「juçiki] (名) すすき (薄)。秋になると、黄かっ色の、約30センチほどの長い穂花を出す。これを利用して箒を作った。「ユヒ」キ 「クー」シ [「juçi「ki 「ku:「ʃi] (すすきを根こそぎ掘りおこしなさい)。「ユヒ」キ クーシ ハ「テ」イユ 「ハウ」ナー「ッ」ター ム「ヌ」ッ「クイ」ヤ ナ「ラ」ヌ [「juçi「ki ku:ʃi ha「te「iju 「hauna:t「t'a: mu「nu「k'uija na 「ranu] (すすきを掘りおこして畑を作らなければ作物はつぐれない)

「ン [「ʔn] (名) いも。アッ「コ」ン [ʔak「ko「ŋ] (「赤いも」の義か) ともいう。ン 「ビレ [ʔm m「bire] (いもを植えなさい)、「ン」ヌ ク「ジ [「ʔn「nu ku「dʒi] (いもくず、いものデンブン)

「ン」ヌ ク「ジ [「ʔn「nu ku「dʒi] (名) いもくず。いものデンブン。「ン」ヌ クジドゥ ヅ「クル」ン「テラー [「ʔn「nu kudzidu k「k'urun「tera:] (いもくずを作ろうとしている)、「ン」ヌ クジドゥ ヅ「くり」ダ「ー [「ʔn「nu kudzidu k「k'uri「da:] (いもくずを作っているのか)「ン」ヌクジドゥ ヅ「くり」ラー [「n「nukudzidu k「k'uri「ra:] (いもくずを作って

いる)

ン「ビダル [mʰbidaru] (動) 植えた。ン「ブヌ [mʰbunu] (植えない)、ン「ビレ [mʰbire] (植えよ)、ン「ビᳵター マ「シッスンᳵガᳵラー [mʰbiᳵta: maʰʃissuŋᳵgaʰra:] (植えたらよいのになあ)、ᳵワᳵー ン「ビスニᳵヤッタ バᳵヌᳵン ン「ビルン [ʰwaᳵ: mʰbisuniᳵ jatta baʰnuᳵm mʰbiruŋ] (君が植えたら私も植える)、ᳵメᳵー ン「ビッスンᳵガ シュ「バネーヌ [ʰmeᳵ: mʰbissuŋᳵga ʃuʰbanemu] (もう植えたから心配ないよ)、ン「ビᳵル シトゥンドゥ 「ブラーヌ [mʰbiᳵru ʃᳵtundu ʰbura:nu] (植える人がいない)

「ンミᳵグンコー [ʰmmiᳵguŋkoᳵ] (名) ほおずき (酸漿)。夏に黄白色の花が咲く。ふろしき包みのような袋状のがくの中に直径約5ミリほどの実ができる。女の子は、この実の中みを出して口の中に含み、ググ、ググと鳴らして遊んだ。

「ンᳵミドゥラー [ʰʔmᳵmidura:] (動) 果物や植物の実が熟していることをいう。バᳵシャᳵヌ ナイヌドゥ 「ンᳵミラー [baʰʃaᳵnu nainudu ʰʔmᳵmira:] (芭蕉の実が熟れている)